



# シェイクハンド

第43号  
H27.1

～静岡県訪問看護ステーション協議会便り～

なやみは半分、よろこび倍増

さあ みんなで手をつなごう!!



## 迎春

### 新年のご挨拶

静岡県訪問看護ステーション協議会  
会長 望月 律子

明けましておめでとうございます。在宅推進政策の下で、訪問看護への期待は益々拡大しています。「質」にこだわり、誇りを持って訪問看護に取り組まれている会員皆様のおかげで、協議会事業が発展的に推進できておりますことを感謝しております。介護報酬改定年ですが、連携を主軸に据え、新たなニーズに 대응していきたいと思っております。今年もよろしくお願ひ致します。



副会長 岡 慎一郎

新年あけましておめでとうございます。昨年中は皆様方に大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

今後、本格的になる高齢化社会の中で、「住み慣れた地域で暮らす」方々に対して、医療・介護提供者が力を合わせて安心して生活できる仕組み作りを進めなくてはなりません。この中でも訪問看護の重要性が年々増大しています。皆さんとともに力を合わせて進んでいきたいと願っています。

皆様方の一層のご活躍を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。



副会長 上野 桂子

あけましておめでとうございます。昨年6月に「医療介護総合促進法」が公布され、その中に在宅医療の充実、医療と介護の連携等が記され、

訪問看護事業所に対する期待や、要望等が挙げられています。また、特定行為に係る研修制度も始まることから訪問看護師として、目を大きく見開いて耳をロバのようにし情報のキャッチが必要です。会員の皆様と力を併せて地域包括ケアの拠点としての役割と機能を果たせるよう頑張っていきたいと思ひます。本年もよろしくお願ひ致します。



## 市民公開講座 在宅ケア普及啓発講演

訪問看護ステーション一休 大村 純子

テーマ：「自宅で死ぬ、ということ」  
講師：ライフ・ターミナルネットワーク代表  
金子 稚子氏

開催日：平成26年11月15日（土）  
13時30分～15時30分

場所：あざれあ 大ホール

参加者：154名

2012年肺カルチノイドで夭折した流通ジャーナリスト、金子哲雄さんの死に寄り添った妻・稚子さんの終末期から臨終、さらに死後のことまで分析的に捉えた冷静な語り口に多くのことを学ぶことができました。

「なぜ死が怖いのか。」死からの先を教えてくれる人がいないから、死に恐怖を感じるのです。不安や恐怖は苦痛を大きくします。お産と同じでこれからおこる身体の変化を知っていれば不安が軽減できるのではないのでしょうか。これは訪問看護の大切な役割であると改めて心に刻みました。また、お互いの死後、再会する場所を決めてあるという素敵なエピソードを拝聴し涙しました。死が終わりではなく単

なる通過点で、死の前後を分断しない活動も稚子氏はおこなわれているそうです。

終末期には《死ぬこと》に懸命に取り組まざるをえません。全てのしがらみは生きていくためのもので、死に直面すると未来から解放され本当にやりたいこと、やり残したことが見えてくるのだと思います。ご本人のその思いに添えられるように、また家族が介護を通して心の準備をする時間を大切に、悔いを残すことがないようにサポートさせて頂きたいものです。



## 平成26年度 第1回中部支部研修報告

訪問看護ステーションエイム 横田 佳苗

テーマ：「在宅医療従事者の連携」  
日時：平成26年11月1日（土）  
14時00分～16時30分

場所：静岡県立大学短期学部内

参加者：70名

2025年問題を見据え、国は社会保障制度改革のなかで「在宅医療の推進」を掲げ、さらに「地域包括ケアシステムの展開」を急進させるべく、その体制の構築に向けて各地での研修や地域特有のモデルケースが実施されています。しかし現状では、まだ少しの限られた地域のみであり、この地域包括ケアシステムが、一元化され全国余す所なく展開されるようになるには、もう少し時間が必要なのだと思います。

では、いま私たちは何をすべきか、在宅医療従事者である私たちは連携のあり方や互いの方向性を常に確認し合うことで、在宅医療連携を確立させ、地

域包括ケアシステムの中心的存在にならない限りありません。また訪問看護師は在宅医療現場における看護・介護の質の向上と、連携の輪を繋げ広げていくことが使命であるとも考えます。

日頃の在宅療養者や家族、関連する他職種との関わりの中、医療連携で抱えている問題や困難な事例、また連携に関して新しい取り組みをしている地区など情報交換や討論し合う場を作り、今後さらにスムーズな在宅医療連携が出来る機会にしたいと研修を開催しました。当日は、訪問看護師29名、訪問入浴看護師2名、医療機関の看護師6名のほか医師9名、歯科医師3名、薬剤師19名、社会福祉士2名と総勢70名が集いました。

「在宅医療従事者の連携」あえて細かなテーマを挙げず、地区ごとにグループ分けをしました。事前に参加者からの質問や意見、困っている事や議題などを取り纏め、その内容を含めて皆でディスカッ



ションし合い、そして誰もが連携について意見交換できる形式としました。

まずは、往診医が不足していることが取り上げられました。ターミナル期の在宅療養で家族が在宅看取りを希望されても、その地域に看取りをしてくださる往診医がいないという現実もあるということ。そこで、参加された医師から「静岡県版在宅医療連携ネットワーク」という医療従事者の連携システムがあり、その活用についてお話を頂きました。

訪問看護においては、総合病院の退院調整看護師の配置と連携シートの活用、退院前カンファレンスも積極的に行われ、在宅療養への移行がスムーズになりました。病院看護師の在宅療養者に対する意識も変わりつつあるところです。訪問看護ステーションでは、主治医や往診医との連携も積極的に取れている様子が覗えました。総合病院の連携室では、退院調整看護師や医療相談員が病院医師と私たちの橋渡し役を担ってくれています。

今回の研修には多くの薬剤師が参加されました。薬剤師の役割として、訪問薬剤管理指導の意義や導入の説明が行われていました。在宅療養されている

方々に「薬剤師をもっと身近に感じて欲しい」、今後は退院前カンファレンスや、サービス担当者会議に積極的に参加していく意向を示されておりました。

歯科医師からは「訪問歯科診療のニーズはもっと多いはず」、在宅療養者に知られていない利用法について説明を頂きました。また肺炎予防のための口腔ケアの実施など特化した科目だけでなく、どんな状態にも対応できるようにしていきたいとのことでした。

各グループの発表で「在宅医療従事者は在宅での役割分担を把握・重視した上での連携が必要である」「専門的に関わる職種がプロ意識を持って在宅療養を支援していくことが大切」「もっと互いの垣根を下げて関係し合うこと」などの意見が飛び交い、ここに集う職種がひとつになる瞬間を感じました。それから、地区ごとの特徴や市町単位で連携が取れている地域もあるなど、多くの情報収集と意見交換、これからの進め方をしっかり学ぶことができたいと思います。「連携」という言葉が頻繁に使われるなか、本当の意味と実現が成されているのかを改める機会となった研修でした。

## 「訪問看護師就業セミナー実施報告」

訪問看護師確保のために、平成22年から取り組んでいる事業です。今年は昨年までの東中西地区、それぞれ2会場から3会場へ増やし、合計9会場で開催しました。参加者は58名（延べ163名）と昨年に比べ大幅に増えました。各地区で3回、月を変えての開催であり、参加者が仕事や家庭の都合に合わせて参加会場を選択できたことが増加につながったと考えています。

参加者は未就業者23名と病院や施設勤務中の方が35名でした。参加者の年齢制限を設けていませんでしたので、今年は70歳と71歳の方の参加がありました。「看護の仕事を自分のできる範囲で続けたい」というのが参加動機です。超高齢化時代を迎えることを考えると、定年退職された方を雇用していくことも検討する必要があると思いました。

参加の動機で最も多かったのが、「訪問看護に興味があったので参加」で、「訪問看護の現状を知りたい」「再就職先の検討のため」等でした。

内容については、訪問看護入門や訪問看護師の役割は全員が理解でき、訪問看護へ再就職した看護師

の体験談も全員が参考になったと回答しています。

「一番不安に思っていたのは技術面だった。働きながらたくさん学べる機会があることがわかって、気持ちが楽になりました」「ブランクが12年あるので仕事に対しての不安がとてもあったが、再就業者の体験談を聞いて少し不安がほぐれた」「ブランクが長かったり、病棟で何年も経験がなくても大丈夫だということに安心した」という声が聞かれました。昨年度協議会で作成したDVDの訪問看護の場面を観て、実際に想像できたという感想でした。実際に訪問看護を利用している人の言葉は、説得力があります。DVDを作成して改めて良かったと思っています。

平成26年12月5日現在、就業が確定しているのは7人です。勤務先の退職が難しい人やブランクがあり中々踏み出せない人もいます。気長に働きかけていきます。

次年度も今年と同様、東中西の各地区それぞれ3会場で開催する予定です。

皆さまのご協力に感謝致します。（事務局 鈴木）



# ステーション紹介

## 東部 ニチイケアセンター富士訪問看護ステーション

谷村 菜美

こんにちは、「ニチイケアセンター富士訪問看護ステーション」です。ニチイと聞くと、介護や医療事務のイメージが強いですが、株式会社ニチイ学館の事業の一つ、訪問看護事業があり、地域に根ざした在宅医療への発展を目指し、全国に訪問看護事業所を展開しております。当ステーションも、平成24年12月1日に富士山の麓に開設となりました。開設当時、訪問看護経験者がゼロで、右も左もわからない状態からのスタートでした。そんな中で最初に関わった利用者様は、認知症のある女性の方で、どのように関わっていけばよいのか、毎日悩んで支援に入っておりました。しかし利用者様から「あなたたちが来てくれることで、とても安心する」とのお言葉をいただきました。利用者様に寄り添い、その方がその人らしく生活できるよう関わる事が大切なのだということ、改めて学ぶことができました。開設からもう少しで3年を迎えようとしておりますが、現在看護師3名で勤務し、スタッフ一人ひとりが、訪問看護師としての自覚をもち、日々の支援、業務を行っております。

当事業所には訪問看護だけでなく、居宅・通所介護・訪問介護も併設しており、利用者様の3割は、自社内で連携を行いながら支援を行っております。しかしながら、「ニチイの訪問看護」の認知度

はいまだに低いというのが現状であり、日々奮闘しております。今回このように、ステーションの紹介をさせて頂けることとなり、多くの方に「ニチイの訪問看護」を周知していただければと思っております。

今後、全世帯に占める高齢者のみの世帯（単身・夫婦）の割合は、2025年には26%になると予想されています。また、日常生活に支援や介護が必要な認知症高齢者も、280万人から470万人へ増えるとされています。これからさらに、在宅介護・看護のニーズが高まる中で、私たちのできることは何かを今一度考え、よりよいサービスを提供できるよう、日々精進していきたいと思っております。今後とも宜しくお願いいたします。

次は訪問看護ステーションかもめさんです。



## 中部 まごころ訪問看護ステーション静岡

森 洋子

こんにちは「まごころ訪問看護ステーション静岡」です。

当ステーションは、平成25年2月に開設、静岡市葵区にある事務所を拠点とし、現在看護師10名、理学療法士2名の12名が、静岡市内で活動しています。また、看護師全員が子育て世代ママです。皆で協力しあって育児に奮闘しながら、日々元気に活動しています。子どものことが気に掛かると笑顔になれない、集中できない…それでは良いケア、良いチームは生まれません。スタッフのひとりひとりが

常に笑顔でケアに向かえるように…スタッフ同士が思いやりを持って、お互いの子育てと仕事をサポートしています。

そんな我がチームは、癌末期の患者さん、ターミナルケア、お看取りの多いステーションです。「死」や「死にゆくひと」そして、その方の周りの人々と向き合うこと…それが私たち訪問看護師の使命のひとつであると思います。ひとの命が消えゆくこと、それは誰にでもいつか訪れること。だからこそ、その時を少しでも良い時間に、そして優しい思い出に



できるようサポートしていけたらと思います。

訪問看護師のもうひとつの大切な仕事は、在宅で生きる療養者さんを支えることです。疾患や障がいを抱えながらも「自分らしく」住み慣れた街、思い出がたくさん詰まった我が家で1日でも長く生活していただきたい!!そんな想いを形にし、継続していけるために私たちにできることって何だろうか? 「寄り添う」って言うけれど、私たちは本当に寄り添えているのか? 誰に寄り添っているのか? 日々そんな想いに揺れながら、理想と現実の間で切磋琢磨しています。

当ステーションの理念のひとつ「小さな力を大きな愛に…在宅ケアチームの一員として、地域を支える看護を目指します」は、地域包括ケアにおける私たち訪問看護師の役割を示しています。ひとりひと

りの力は小さくても、チームで力を合わせて静岡市をサポートしていきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

次はあい訪問看護ステーションさんです。



## 西部 訪問看護ステーション三方原

尾田 優美子

こんにちは!

訪問看護ステーション三方原です。当事業所は、2011年3月15日に運営を開始しました。

開設から丸三年が経過した現在、利用者132名・スタッフは15名と開設時の倍の規模になりました。利用者さんは小児から高齢者までと幅広いです。神経難病・ターミナル・慢性疾患や精神疾患をお持ちの方など、依頼があればどんな状態の方にも訪問しています。理学療法士も3名常駐し、病態のみかたや視点の違いを看護師と共有し、しっかり意見交換をしながら双方の強みを生かす訪問看護の展開を目指しています。

大きな特徴としては、居宅介護支援事業所とデイサービスセンターが併設されているという点があります。母体が同じでも、事業所同士で努力しないと良い情報交換や協力体制はとれません。一つ一つシステムを作り、いかにお互いの力を活かすか、利用者さんのケアに効果的に反映させるか話し合い、実践し、修正を繰り返しながらいい事業所作りに取り組んでいます。協力することで生まれる相乗効果は、そのまま利用者さんへいいケア・良い結果として反映されていきます。他職種・他事業と共に努力したことが、利用者さんの笑顔につながる幸せは、ここに勤めないと体感できなかったと思います。

こんな幸せをかみしめつつスタッフは日々仲良く、アサーティブに意見交換しながら訪問看護に取



り組んでいます。「この地域で生活される皆さんが、介護が必要になったときも安心して自宅での生活を続けられる」そんな地域を創っていきたいと考えています。訪問看護だけでは実現できませんので、地域の先生方・ケアマネジャーさんたち・総合病院の退院調整の看護師さんたち・回復期病院のスタッフの皆さんと顔をつなぎ、意見交換のできる関係作りにも取り組んでいます。

次は訪問看護ステーションとよださんです。



## 訪問看護ステーション協議会東海北陸ブロック交流会に参加して

訪問看護ステーション掛川

赤堀 奈緒子

去る10月25、26日、静岡が当番県となり、訪問看護ステーション協議会東海北陸ブロック交流会が開催されました。御殿場高原ホテルを会場とし、7県の訪問看護ステーション協議会から計29名の参加者をお迎えしました。

まず、当会副会長であり、全国訪問看護事業協会副会長の上野桂子先生により、訪問看護ステーションの現状と今後をテーマとして講義を受けました。事業協会、日本訪問看護財団、日本看護協会の三団体により検討されている、訪問看護戦略2025策定事業。地域の中の「看護師集団の力」を集約し「医療ニーズ対応型地域包括ケア拠点」として機能する「地域ナースングセンター」という事業が検討されているとの事でした。今からわずか10年後の事、身の引き締まる思いです。

意見交換会では、各県の取り組みが報告されました。協議会を発足したばかりの県や積極的に研修を行っている県など互いに刺激を受ける内容でした。静岡県では当会理事である、訪問看護ステーション千本の桜井所長により、昨年度制作した、訪問看護のDVDが紹介されました。実際の訪問看護提供の場面、利用者、家族の声等が収録されているこのDVDは大好評であり、購入したいという意見もいただきました。

その後、昨年課題としてあがった、この交流会の会則について協議しました。東海北陸地域は、予測されている南海トラフ地震が発生すると甚大な被害を受けます。地震だけでなく、台風等大規模災害時には物的資源、人的資源が不足します。発災後即時に協力し合える体制づくりが必要であることから、情報交換の場として始まったこの交流会をもとに体制をつくらうと、その点も含めた会則を作る事となりました。交流会は毎年1回、当番県も毎年交代していきます。

夜は、意見交換会を兼ねた懇親会でした。ここか

らは、事業協会の事務局長、宮崎和歌子さんが参加してくださり、制度改正の最新情報やトピックスをお話いただきました。また美味しい料理と御殿場高原ビールを楽しみながら、其処此処で活発な情報交換がなされていました。

2日間過ごした部屋割りは、各県バラバラのメンバーです。場所は違えど同じ訪問看護師であり、どの部屋も遅くまでおしゃべりが盛り上がっていました。私の部屋では、個人で開業している方の話が印象的でした。自身の家族に対する思いから始まった開業。積極的に地域と関わり、ニーズを見つけると新たなサービスを展開していく。そのパワフルさはとても魅力的で、もっと話を聞きたいと、みんなで質問攻めにしながら感心したり笑ったりでした。

2日目は10時に解散後、希望者は、岸邸や白糸の滝を見学。遅めの昼食に静岡が誇るB級グルメ、富士宮焼きそばを堪能し、名残惜しくもそれぞれ帰路に着きました。

現場を離れ、同じ訪問看護を実践する多くの仲間との2日間は、気分転換とともにたくさんの刺激を受けるものでした。

来年は海の幸がおいしい富山が当番県です。





## それいけナースマン —地域で頑張る男性訪問看護師を紹介します—

静岡済生会 訪問看護ステーションおしか サテライトみかど台

多胡 陽亮

訪問看護を始めて7年が経とうとしています。この7年は、とても充実した7年でした。思えば、総合病院に就職してまだ間もない時、訪問看護をやろうと思うきっかけがありました。当時の私は、仕事を覚えることに精一杯でしたが、入院患者さんは次々と来てとても忙しかったことを記憶しています。そんなとき、入院してきた患者さんで、倒れてから2日後に宅配業者に発見されて病院に来たと申し送りがあり、私は愕然としました。家族の人は？誰かいなかったの？と考えました。核家族化が進んでいるとは聞いていましたが、これが現実なのかと受け入れざるを得ませんでした。そして、倒れる前に兆候はなかったのか、もっと未然に防ぐことができなかったのだろうかと考え、この時、私は病院ではなく地域に出て広い視野で看護をしていきたいと思いました。そして、病棟経験8年を経て訪問看護の道へ進みました。

訪問看護師となり、病院との違いに驚きと戸惑い、また利用者さんのことを親身になって考えられる喜び等、今まで経験をしたことのないような学びをすることができました。就職して3年目に、私にとって考えさせられる事例と出会いました。利用者さんは、膵臓癌末期の80歳代男性。杖歩行の妻と長男夫婦と孫の5人暮らし。家族は、延命治療は希望されおらず、本人の意思に沿い、病院には行きたくないと言っていました。腎不全や神経因性膀胱があり、導尿のため週3回の訪問看護に入っていました。徐々に尿量は減少。ある日の訪問で、顔面の皮膚黄染あり、意識レベルも混濁していました。訪問時は妻だけしかおらず、最期をどうするか判断はつきませんでした。そこで、長男と電話で話し、母が家でみていくことは限界とのことで、病院へ救急搬送され10日後永眠されました。本人と家族は病院へは行きたくないと言っていたのにも関わらず、病院へ搬送しなくてはならないことに、自分の無力さを感じました。病状から急変が起こり得ることはわかっていたのですが、今後の病状の変化への対応方法や看取りについての話を詰めていなかったことが問題でした。病院では、バッドニュースは主治医が説明していましたが、在宅では利用者さんのことを思い、必要なことであれば、訪問看護師がバッドニュースを伝えなければならないことを学びました。また、利用者さんだけでなく、家族の特徴や状態を理解

した上での日頃からの関わりが大切であり、自宅で過ごしたいという思いに寄り添える看護が必要な事を学んだ事例でした。

男性看護師としては、初めは信頼関係の構築で悩みました。病院では、男性看護師は増えてきていましたが、在宅では抵抗があるようで断られてしまうこともありました。また、私は今まで、病院で指導的な立場で患者さんに接することが多かったため、当たり前のように在宅で指導すると、利用者さんを怒らせてしまうこともありました。それから、言葉遣いや身だしなみに気を付け、常に謙虚さを忘れずに利用者さんやご家族と接するようにしました。そうすると、徐々に信頼を得られるようになり、医療者側としての意見や必要性を理解してもらえるようになりました。在宅は、治療に専念する場ではなく、利用者さんがご家族と一緒に療養する生活の場だということ学びました。その在宅療養を支援するためには、関係職種と信頼関係を保ち連携していくことが重要であり、日頃から顔の見える関係づくりに努力していきたいと思っています。

2040年には、50万人分の看取りの場が不足すると言われていています。施設での看取りにも限界があり、今後ますます在宅医療が不可欠となっていくことが考えられます。まずは、静岡済生会総合病院の看護師として何ができるのかを考え、この多くの学びを、今度は地域の方々に返していけるように、今を頑張っていこうと思います。

住み慣れた地域で、我が家で安心して、その人らしく心豊かな生活ができるを理念に・・・





## 事務局より

あけましておめでとうございます。今年も下記の通り研修会を開催致します。  
新しい研修も始まりますので、ふるってご参加ください。

## 研修会のお知らせ

### ◇在宅ターミナルケア研修（西部・東部2ヶ所で開催します）

#### 西部

会場	なゆた浜北（浜松市浜北区貴布祢 3000）大会議室
受講料	無料
日時	（1日目）平成27年1月24日（土） 9時30分～16時30分
テーマ	「終末期のコミュニケーション」「死後のケア」
講師	がん専門看護師 茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター看護局長 角田直枝氏
日時	（2日目）平成27年1月31日（土） 9時30分～16時30分
テーマ	「症状コントロール がん疼痛治療剤」「高齢者のエンドオブライフケア」
講師	協和発酵キリン株式会社 浜松営業所 梅崎良二氏 老人看護専門看護師 聖隷浜松病院 宗像倫子氏

#### 東部

会場	プラサ ヴェルデ（沼津市大手町 1-1-4） 401 会議室
受講料	無料
日時	（1日目）平成27年1月10日（土） 9時30分～16時30分
テーマ	「終末期のコミュニケーション」「死後のケア」
講師	がん専門看護師 茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター看護局長 角田直枝氏
日時	（2日目）平成27年2月14日（土） 9時30分～16時30分
テーマ	「高齢者のエンドオブライフケア」「症状コントロール がん疼痛治療剤」
講師	老人看護専門看護師 聖隷浜松病院 宗像倫子氏 協和発酵キリン株式会社 沼津営業所 後藤和裕氏

### ◇小児研修（2日間）

日時	（1日目）平成27年2月21日（土） 10時～16時
テーマ	「小児看護の基本」「小児在宅療養の現状と課題」 「在宅療養児の家族の話」「小児の医療機器紹介」（予定）
講師	静岡県立こども病院 医師・看護師 他
会場	あざれあ
受講料	無料
日時	（2日目）平成27年3月14日（土） 10時～16時
テーマ	「小児の訪問看護事例」
講師	訪問看護ステーションあおむし 所長 原との子氏
会場	あざれあ
受講料	無料

### ◇全体研修会

日時	平成27年3月28日（土） 14時～16時
テーマ	「平成27年度介護報酬改定について」
講師	全国訪問看護事業協会 副会長 静岡県訪問看護ステーション協議会 副会長 上野桂子氏
会場	シズウェル（静岡市葵区駿府町 1-70） 703 会議室
受講料	会員 ¥1,000



2014年は、地震、台風、土砂災害、噴火と自然災害が猛威を振りました。「想定外」という言葉が頻繁に聞かれるほど、その規模が大きくなっています。

いま一度災害対策マニュアルを見直しているステーションも多いのではないのでしょうか。

ご近所や地域の事業所とのつながりも深めていきたいですね。

## シェイクハンドNo.43

2015年1月発行

**発行所** 静岡県訪問看護ステーション協議会  
静岡市葵区川辺町二丁目4番地の13  
Tel 054-275-3339  
Fax 054-275-3338  
e-mail sizuokahoumonst@cy.tnc.ne.jp

**発行人** 望月 律子  
**編集者** 石井 由美（訪問看護ステーションなかいず）東部  
大村 純子（訪問看護ステーション一休）中部  
赤堀奈緒子（訪問看護ステーション掛川）西部